

## 平成 2 4 年度三番瀬自然環境調査

## 三番瀬鳥類経年調査

## (1) 目的

三番瀬海域及び周辺地域の鳥類の飛来状況を、連続して飛来数を計測することによって、より詳細に把握する。

## (2) 調査方法

三番瀬及びその周辺地域 4 箇所を対象として、以下のとおり調査を実施する。

## ① ラインセンサス法

調査地点の中に定められた特定ルート上を比較的ゆっくりとした一定の速度で歩き、望遠鏡又は双眼鏡を用いてルートの両側（陸上では片側 5 0 m、干潟～海上では約 1. 5 km～ 2 km）を調査する。

## ② 定点調査法

調査範囲を広く見渡すことのできる定点から、望遠鏡又は双眼鏡を用いて可視範囲内を調査する。

なお、スズガモについては、正確な個体数を把握するため、1 1 月から 3 月までの三番瀬海域 3 地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）において、同一日、同一時刻に一斉カウントを行う。

## ③ 観察条件の記録

調査日時、干潮・満潮時刻及び潮位、天候、気温、風向、風速の観察条件を記録する。

※ 気温、風向、風速は船橋アメダス観測データ。潮位は第三管区海上保安本部芝浦験潮所の潮汐日報をもとに A. P.（荒川工事基準面）とした表示。

## ④ 写真等による記録

調査区域の全容、干潮時における干潟の干出状況、観光客等の人出や船舶等鳥類の生息に影響があると思われる状況、及び、鳥類の生息状況等を写真等により記録する。

## (3) 調査項目

鳥類の種別飛来数

## (4) 調査場所

これまでの鳥類経年調査からの解析結果を考慮して、特に鳥類の利用が多く、重要と考えられる、三番瀬海域 3 地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）及び谷津干潟（別図参照）

※行徳湿地については、他の調査結果を引用する。

## (5) 調査期間

平成 2 4 年 4 月～ 2 5 年 3 月（月 2 回調査）

三番瀬鳥類経年調査対象区域図

